2025年５月吉日

井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会
戦後80年記念企画＆文化・芸術振興企画
【第７回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町】
企画書 兼 協賛等依頼書

井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会

会長　重松 文宏

事務局長兼東京支部長　大越 貴之

＜開催概要・目的＞

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、貴職におかれましては益々、ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

私ども主催者（井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会）では、おかげさまで毎回好評を博している【ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展】の過去６回の開催を振り返った時、常に意識してきたのは①「継続は力なり」であり、毎回確信したことは②「百聞は一見に如かず」ですが、昨夏初めて「原爆の絵」展の連携企画として行った広島訪問ツアーを踏まえて感じたことは③「現地で体感」の重要性です。

こうした基本姿勢を抱く私どもが、この１年あまりに嬉しく思えたことが５つあります。

まず１つ目は、何と言っても昨秋飛び込んできた日本被団協のノーベル平和賞の受賞です。

被爆者の永年のたゆまぬ努力に、世界的に権威あるノーベル委員会から目に見えるカタチで大きな評価が与えられたのは、唯一の被爆国に生きる日本人としてもこれ以上の幸せはありません。まさしく「継続は力なり」の賜物であり、固い信念の下に活動を続けることの大切さ・尊さを改めて教えられた気がします。被団協のみなさまには強く敬意と謝意を抱く次第です。

次に２つ目は、このノーベル平和賞の受賞がもたらした好影響と言うべき、波及効果です。

ウクライナ危機や中東の紛争、米トランプ政権の誕生等によって世界が混迷を極める中、核兵器使用への脅威・懸念は年々深まりつつあり、この受賞が日本のみならず世界に与えるインパクトは計り知れないものとなりました。国家レベルはともかく市民レベルでは国の内外で、受賞を契機に厭戦ムードから核兵器や被爆者に高い関心が寄せられ、その活動に好意的な理解が示され、被爆者に追い風となっています。

事実、受賞はゴールではありません。被爆者の最終的な願い、亡き被爆者への誓いは核兵器の廃絶・根絶です。その意味ではまだ道半ばですので、微力ながら私たちも被爆者に寄り添い願い・誓いのバトンを受け継ぐ覚悟を、改めて少なからず生じさせてくれました。

３つ目は、昨年１月 19 日に重要文化財に指定された旧広島陸軍被服支廠の耐震補強工事が 12 月 16 日から開始されたことです。

現存する国内最大級の被爆建物で、鉄筋コンクリート造とレンガ造が複合する国内でも希少な建築物として、往時を偲ぶ建築史的にも後世に託されるのはすばらしいこと。解体の危機に瀕した物言わぬ被爆の証人＝被爆遺構が、似島（にのしま）にあった弾薬庫等のように、ひっそりと解体された例も少なくない中、被爆者がいなくなる将来を見据え、「第２の原爆資料館案」など若い世代を交えた利活用案が再び検討されるようになったと聞きます。これは本当に希望、期待しかありません。

４つ目は、昨夏６月 29 日（土）～７月１日（月）の２泊３日で広島県神石高原町～福山市～広島市を巡る【第１回平和と文化、継承を考える旅（郷土芸能観賞＆映画鑑賞付き広島観光ツアー）】を、【第６回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町】の連携企画として初挑戦しましたが、大変ありがたいことに参加者からはもちろん現地の受け入れ側からも一様に好評だったことを受け、今年も開催が決定したことです。

ただ、前回は誘客・集客に少なからず苦慮したため、今年は８月に行う【第７回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町】を踏まえ、「百聞は一見に如かず」の想いを胸に現地を是非訪問したいと考える来場者を主な対象に、10 月での【第２回平和と文化、継承を考える旅（郷土芸能観賞＆映画鑑賞付き広島観光ツアー）】の開催を予定しています（ご関心がある方は遠慮なくご連絡を！）。

最後に５つ目は、戦後 80 年記念及び文化・芸術振興の双方に資する企画として、めでたく基町高校卒業生の富田葵天さんの画集を作製することになったことです。

【ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展】では 2020 年の第２回以降、昨夏の第６回に至るまで、原爆や平和等をテーマに油絵の新作１作品を欠かさず作成・展示いただきました。東京藝術大学大学院の卒業後、社会人になられた日々慌ただしい中でも、まさしく「継続は力なり」を体現して見せた葵天さん。これまでの継続した活動に敬意を表し、これからも活動を是非継続されることを祈念し、画集の作製を通じてエールを送りたいと考えています。

聞けば、高校卒業後は原爆や戦争に係る絵は描かれなくなる方が多い傾向なのだとか。そうした中、葵天さんは大学２年の 2016 年以降、毎年描かれ、今年でちょうど 10 年を迎えられるとのこと。高校在学中の作品「忘れられない、あの眼」と合わせると、これまで通算 10 作品が描かれたことになり、今回の画集はそれを祝う記念の逸品でもあるのです。

以上から、首都圏の皆様にあっては今夏も【第７回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町】にご来場の上、ご関心を高め、「現地で体感」したいと思っていただく呼び水となる役割を果たせられればと存じます。また、【第２回平和と文化、継承を考える旅（郷土芸能観賞＆映画鑑賞付き広島観光ツアー）】を通じた「現地で体感」が叶わない方々にあっては、難しいことですが少しでも現地を訪問した感覚に近づけるよう、本催事内での展示や講演等にあって一層工夫に努めたい所存です。

と同時に、年々国際情勢は深刻化し、昨夏以上に人類と世界が試されている時代（とき）。戦後 80 年の今夏も、世界中の安寧と平穏の日々が必ず戻ることを祈りつつ、「戦争と平和」を人類が熟考し、平和のありがたみを再確認すべく以下５点の意識共有を…と捉えています。

～日本、そして世界の恒久平和、環境保全が危機に瀕している～

地球規模で年々増す異常気象や巨大地震。不安・懸念が高まる日本の軍事方針と外交能力。覇権主義・独裁主義が台頭する世界では、停戦の見えないロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ・イスラエル戦争に加え、世界中を混乱に陥れる米トランプ政権の暴走。日米、米中や米欧の貿易戦争の激化も、絶えない紛争と併せ、世界に暗い影を落とす。戦争で罪なき市民の命が、貿易で市民の生きる権利（雇用や財産）が相次いで失われる中、核武装を是とする歪んだ抑止力が常套句ともなり、高い関税が国家間の分断を起こし、人心を惑わし、相互の信用・信頼を奪っている今、改めて生活の基礎となる平和の尊さを見つめ直す時といえる。ＳＤＧｓ促進などいかに図っても戦争が起きれば、それが最大の環境破壊になるのだから。

～今なお核兵器禁止条約に日本が不参加である～

2021 年１月 22 日、核兵器禁止条約が発効。明るいニュースが国連発で世界を駆け巡った。あれから３年…2024 年秋、今度は日本被団協がノーベル平和賞受賞というビックニュースが届いた。石破政権となり、ついに日本政府も変わるかと思いきや被爆者の願いは届かず。又とない変化を起こせる好機を逃し、核兵器禁止条約に相変わらず不参加で、オブザーバーとしての参加もなかったことは本当に悲しく、腹立たしい。

せめて本催事では、被爆者に寄り添う心を一層醸成し、共に核兵器禁止条約への署名・批准を日本政府に求める声を高めてゆきたい。

～被爆者が高齢化し、記憶の継承が課題である～

日本政府の核兵器禁止・抑制への毅然たる態度も望めず、軍備費拡大へと動く中、被爆者は高齢化し、語り部も減少傾向にある。

今こそ「原爆の実相を後世にいかに伝えるか」が大きな課題だが、基町高生の「原爆の絵」は実にうまく向き合い、それを描き切っている。記憶の継承の重要性は、学習会等でも学べなくもないが、「原爆の絵」を通じてなら世代を超えて誰もが五感をフルに活かし、頭より心で、理解が一層深まると考えられる。

～イデオロギーの別に関わらず、日本の文化・芸術に触れる～

基町高生が被爆者と二人三脚で描く「原爆の絵」は、思想に左右されるものではない。現実に広島で起こったことを両者が２つのソウゾウリョク（想像力と創造力）を最大限に活かし取り組まれたものである。その過程（一連の活動）と結果（完成した絵）を、純粋に文化・芸術に触れる視座から眺め、頭（＝記憶に残す）と胸（＝心で感じる）に刻んでほしい。

戦後生まれが圧倒的多数の今、知らないことは何ら恥じる必要はないが、戦後を生きる日本人として、知ろうとしないことは何より恥ずべき行為であろう。先入観は抱かず鑑賞を！

～井伏鱒二を、「黒い雨」の世界を知り、顕彰する～

地域に縁のある偉人・賢人や作品を称え、その精神を代々引き継ぎ、世代を超えて郷里への誇りを育む流れは近年、社会、学校、家庭を問わず全国各地で急速に失われている。私ども主催団体では、被爆地：広島市＆広島県神石高原町を舞台に描かれた原爆小説「黒い雨」、その作者で広島県名誉県民、文化勲章受章者でもある井伏鱒二、さらに井伏に「黒い雨」の礎となった「重松日記」を託した重松静馬（広島市内で被爆後、郷里の神石高原町で養生）は、後世に伝えるべき対象と捉え、活動している。

戦後 80 年の今夏も、静馬の娘婿で主催団体の会長を務める重松文宏が、小説「黒い雨」をめぐる講演を世界平和を祈念して行う。

上記を踏まえ、昨夏以上に様々な想い・願いを、そして祈りを込めて行う【第７回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町】。ネット環境では感じ得ないライブ空間のギャラリーで、今夏も高校生の真心と熱意が込められた優れた作品の数々に触れ、何かしらの学び・気づきを、たくさんの元気・勇気を得ていただければ幸いです。

＜基町高生の描く「原爆の絵」とは＞

いま広島で、おそらく最もよく知られ、県内各所で展覧会が開かれたり、各方面から交流を求められ、ＴＶ・ラジオ・新聞・演劇などメディアを大いに賑わせている高校生…それは広島市立基町（もとまち）高校の創造表現コースの生徒たちだと思います。

見た目には、ごく普通の高校生ですが、被爆者の方々から被爆体験や原爆被害の実相を幾度も聞き取って、より実情に近づけるべく、１人ひとりが個性や感性を最大限に活かし、丁寧に書き足しながら（被爆者は絵を目の前にすると次々新たに記憶が呼び覚まされると言います）油絵を創り込んでゆくのです。

被爆者の方のお話に誘（いざな）われ、自らも原爆投下の「あの日」にタイムスリップして追体験する…その取り組みは生半可な心身でできるものではないといいます。時に心や身体のバランスを崩す生徒もいるようですので、高校生といえども、いかに被爆者に寄り添い、真剣勝負であるかが察せられます。

こうした一連の協同（共同）作業により、語り手の被爆者と聞き手・描き手の高校生の想いや意識が一体化した時、完成した絵は高校生のものとは思えないほどの凄味（圧倒的な存在感と説得力）を持って観る者に迫り、心を揺さぶります。ただ、その凄味とは、原爆の恐ろしさや戦争の悲しみ、やり場のない憤りや静かな怒りなど、様々な悲哀の表情にとどまりません。

未来ある高校生が描くからこそ、絶望が支配する絵の中にあって、自分たちが被爆者の想いを継いでゆくのだといった誓いや平和への願い、力強い意志がメッセージとして映し出され、観る者に一筋の希望や勇気をも与えているように感じます。

＜主催団体の紹介＞

2017（平成 29）年冬に発足した、井伏鱒二先生生誕 120 周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会（本部：広島県神石高原町、東京支部：杉並区）では、井伏鱒二の生誕 120 周年にあたる 2018（平成 30）年より、当年１年限り（一過性）ではなく継続して、井伏が原爆小説「黒い雨」を通じて後世に伝えたかったであろう【戦争の愚かさ・醜さ】、希求して止まない【世界の恒久平和】、そのために欠かせない【核なき社会】の実現に向けて、微力ながら尽力してきました。会の名称は 2022（令和４）年より、冠の生誕 120 周年を生誕 125 周年と改称。

さらに、井伏が文豪で趣味人でもあったため、様々な文化・芸術関連団体と連携、その支援・協力にも努めています（ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展や青年劇場「あの夏の絵」公演、「東京大空襲を忘れない」平和の集いの実施や協力が相当）。

戦争や原爆に係る意識や行動等にあって、多くの人口を擁する首都：東京と被爆地：広島・

長崎とでは、同じ被爆国の日本でありながら、温度差を感じざるを得ません。そこで、様々に催事や活動を連携させていただき、想いや志を同じくする広島市立基町高校の創造表現コースや「原爆の絵」の存在を、老若男女を問わず東京の皆様に広く見知っていただくと共に、若い世代の活動から勇気と元気をいただいてほしいと、以下の要領で展覧会を開催します。

開催に際しては今年も、日本人が最も戦争と平和に思いを馳せる時期で、多くの子供たちが親子で参加できる夏休み期間である８月中旬を選択しました。場所は昨夏同様、交通の利便性に長け、情報の発信力をはじめ様々な相乗効果が高い有楽町と致しました。

名　称　**第７回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町**

日　時　**2025（令和７）年８月10日（日）～16日（土）**
午前11時～午後６時（初日は午後１時～、最終日は午後５時）

場　所　**東京交通会館　地下１Ｆ**
＊ギャラリー「エメラルドルーム」…主に特製パネルの展示等
＊シルバーサロンＣ…ミニ講演や絵本の朗読、紙芝居の上演等

＜展示点数・内容＞

この度は、前回&前々回で利用した「２Ｆギャラリー」が残念ながら借りられませんでしたので、各県のアンテナショップや飲食店街もあって人通りも多い地下１Ｆに会場を移し、かつ２部屋（ギャラリー「エメラルドルーム」＝主に展示用、シルバーサロンＣ＝主に講演用）をお借りし、開催することとしました。

ただし、今度こそと期待する声が多かった「原爆の絵」原画は、やはり美術品として相応の保険代・送料を要するため、今回も①絵（プリント）と②絵の解説＋声（高校生・被爆者）…共に和文・英文あり、③絵に描かれた被爆地点がプロットされた地図の３点をセットした基町高校作製オリジナル「特製パネル」を中心としつつ（前回と同じ約35点を展示予定）、在京の卒業生が描いた原画２作品（新作を含む）を展示する方針です。

会場内での展示方法は、第３回から試み、分かりやすいとの評価を得た時間順（原爆の投下前～その時～投下後～投下数日後）におよそ基づいて行います。

また、第７回の特別企画として、当会の重松文宏（会長を務め、神石高原町で語り部として活躍）によるミニ講演（原爆小説「黒い雨」の誕生秘話や井伏鱒二が執筆に至る契機となった重松静馬との書簡等を紹介）、原爆にまつわる絵本（ひばくポンプ、おこりじぞう等）の朗読のほか、オリジナル紙芝居の上演等を用意しています。

◇８月10日（日）
午後３時～：原爆にまつわる絵本の朗読会（福崎照子氏）
◇８月11日（月・祝）
午後３時～：特別講演会「戦後80年に考える　小説「黒い雨」を通じたメッセージ」（講師：重松文宏会長）

◇８月 12 日（火）
午後１時～：特別講演会「戦後 80 年に考える　小説「黒い雨」を通じたメッセージ」（講師：重松文宏会長）
◇８月 13 日（水）
午後１時～＆４時～：原爆にまつわる絵本の朗読会（福崎照子氏）
◇８月 14 日（木）
午後１時～＆４時～：原爆にまつわる紙芝居の上演会（赤松理氏）
◇８月 15 日（金）
午後１時～＆４時～：原爆にまつわる紙芝居の上演会（赤松理氏）
◇８月 16 日（土）
午後３時～：原爆にまつわる絵本の朗読会（福崎照子氏）

＜運営資金及び特典＞

前回に続く有楽町開催にあたっては、当会の「積立金」、開催期間中に来場者から頂戴する「協力金（＝入場料）」のほか、開催概要・目的に広く共鳴いただいた関係各方面（個人及び法人・団体）から「協賛金」を募り、これらを原資として取り組むものと致します。

また、ギャラリー関係者（東京交通会館）との協議の結果、「基町高校に協力する」という目的を誰もに分かりやすく、より明確化する意味で入場料から協力金へ呼称を変更しました。１人でも多くの皆様のご来場をお待ちしております。

なお、過去６回と同様に、協賛金：個人１口＝入場券１枚、法人・団体１口＝入場券５枚のほか、口数に相当する協賛返礼品として「戦後 80 年記念企画」の画集を進呈します。

協力金（＝入場料）	**500 円（税込：中学生以上、小学生以下は無料）**
協賛金	**個人＞１口：3,000 円　　法人・団体＞１口：10,000 円**
特　典	**個人＞１口：入場券１枚　法人・団体＞１口：入場券５枚**

＜戦後 80 年記念企画＞

今年は戦後 80 年の節目の年。昨秋には日本被団協がノーベル平和賞を受賞するという吉報がもたらされ、長年にわたる被爆者の「継続は力なり」の活動が報われ、被爆者や核、平和に対して国内外で老若男女を問わず、いつになく関心が高まっている時代（とき）を迎えていると感じます。一方で、被爆者の平均年齢は 86 歳（今年３月末現在）となり、今後は被爆者の体調等を考慮すれば「原爆の絵」がより重要性を帯びてきます。

そこで、このタイミングで、基町高校在学中に「原爆の絵」を描き（「忘れられない～あの眼」）、2016 年以降は毎年、戦争と平和をテーマにした油絵を描き続け（今年でちょうど 10 年目）、2019 年夏の本催事の第１回開催以降、毎夏「継続は力なり」の精神で出展し続けていただいている若き画家：富田葵天さんの初となる画集を、【文化・芸術から継承を考える～「継続は力なり」から見えてくる景色～】と題し、戦後 80 年記念企画として作製することと致しました（詳細は別紙を参照）。

つきましては、作製のための「支援金」を今夏は特別に広く募集したい方針です。１人でも多くの皆様からの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

画集支援金　　**１口：500 円**

＜運営体制＞　※以下は前回実績。現在、以下の官民組織を中心に打診・検討中

主　催　**井伏鱒二先生生誕 125 周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会**

協　賛　**株式会社 きかんし／学校法人 マスダ学院／株式会社 東京園**
慶應義塾大学文学部 小倉康嗣研究室／日本シルクを守り育てる会
ひのはらムラサキプロジェクト／ＮＰＯ法人 シエン・システムズ
「東京大空襲を忘れない」実行委員会／一般社団法人 たねまき
株式会社 くもん出版／神田須賀川会／ダイドードリンコ 株式会社
ＮＰＯ法人 nina 神石高原／ＮＰＯ法人 ピースウインズ・ジャパン
横山百貨店／株式会社 中國開發

協　力　**広島市立基町高等学校／青年劇場／歴史と文学の館・志麻利**
株式会社 写真弘社／「ヒロシマへの誓い」配給委員会
ひろしまブランドショップＴＡＵ／府中市アンテナショップＮＥＫＩ
株式会社 新内農園／中越パルプ工業 株式会社
八王子 平和・原爆資料館／株式会社 ハシモト・コーポレーション

後　援　**広島基町高等学校同窓会／基町高校同窓会 東京支部／中国新聞社**
福山誠之館同窓会／ふくやま文学館／原爆の図 丸木美術館
公益財団法人 広島ＹＭＣＡ／公益財団法人 広島平和文化センター
広島県／広島市／東京広島県人会／神石高原町
神石高原町教育委員会／一般社団法人 神石高原町観光協会

問合せ　**東京支部（担当：大越**　090－2754－5652）

以　上